

とても清々しい季節、緑も日に日に濃くなってきました。鳥たちは巣立ちの季節を迎え、森の中ではシジュウカラが家族単位の群で行動しているのを見かけます。ついこの間、葉が展開しはじめたと思っていたクワの木には、もう果実がたわわに実っています。今回は、養蚕の歴史の名残を伝えるクワの木をじっくり観察してみましょう。

## クワの実の季節です

クワの実は、多くの大人にとって幼い日のあまーい記憶を呼び起こす存在のようです。黒紫色のぷりっとした果実は甘く、適度なツブツブ感があって野外の食べられる果実の中でも抜群のおいしさといえるでしょう。もちろん、これを喜んで食べるのは人間だけではありません。スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、カラスなど多くの野鳥、ハクビシンなどほ乳類が食べて食べて、食べまくります。そうして消化管を通り、未消化物としてフンに混じって好条件の地上に落ちた種子は発芽して…。フェンス沿いや電線に沿ってクワの幼木が多いのは、こんな理由があったのです。



クワの果実(マルベリー)

## クワにまつわる虫～害虫、クワキジラミ！

クワの葉が開いてしばらくすると、葉がクシャッと縮こまり、その中からなにやら白い糸のようなものがひらひらと垂れ下がっているのを見ることがあります。いったいこれはなんでしょう？じつは、クワキジラミという昆虫の幼虫なのです。キジラミとはカメムシ目に属し、成虫の姿は同じカメムシ目のセミとちょっと似ています。木の汁を吸うところもセミと同じですが、大きな声で鳴いたりはし



クワキジラミの幼虫がついたクワの葉

ません。とても小さくて、葉の裏の葉脈に沿ってとまっていることが多い目立たない虫です。しかし、クワの葉はカイコを育てるための大切な作物です。クワキジラミがついた葉は水分が吸い取られてしまいますし、幼虫じたい、カイコが食べるのにとても邪魔です。そのため、クワキジラミは昔からクワの木の害虫として養蚕農家から嫌われていました。さて、この白い糸ですが、幼虫のおしりから出るロウが固まった物だそうです。いったい何のためにこんなものをくっつけているのでしょうか？



## 誰かが木の枝でお洗濯？いえいえ、これも昆虫です

植物の茎によく見られる泡ですが、これはいったいなんでしょう？じつは、この中に入っているのもやはり、カメムシ目アワフキムシ科の昆虫の幼虫です。日本にはよく似た仲間が50種以上います。ロウ状の物質や泡や、カメムシは臭いにおいと、とにかくこの仲間は不思議なものを出す虫たちですね。



クワキジラミの幼虫

アワフキムシの幼虫の巣

次回のお知らせ(毎月第四土曜日開催)  
ミニ観察会: 6月22日(土) 12時~12時30分まで  
新聞 No.27 も発行します。